

世界遺産のこうほになった大牟田市の近代化遺産



①宮原坑跡



②三池港



③旧三池炭鉱専用鉄道跡



④万田坑跡（荒尾市）

①三池炭^{こう}鉱^{こう}宮原坑跡^{あと}

明治31年（1898）にできる。1年間に40～50万トンの石炭をほった。明治・大正の中心となった炭鉱で、国の重要文化財・史跡になっている。

②三池港

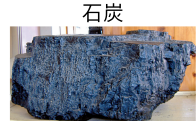
三池炭鉱の石炭を船につむためにつくられた港。
この港ができると、海があさく干満の差が大きい有
明海に大きな船が入れるようになった。

③旧三池炭^{こう}鉱専用鉄道跡

明治24年（1891）にできる。石炭だけでなく工場と工場をつなぎ、原料やせい品を運んだ。

④三池炭^{こう}鉱^{こう}万田坑跡

明治35年（1902）にでき
当時日本で一番大きい炭鉱。
重要文化財・史跡になっ
ている。



「近代化遺産は大切な建物なんだね。
そんな建物がわたしたちの町にあるなん
てすごいな。」

「でも、大牟田の石炭^{たん}のことについてはよく知らないな。」

そこでつぎに、はるかさんたちは大牟田の石炭や炭鉱のことについて調べてみることにしました。